

長崎県理学療法士(協)会
代議員立候補者

定 数 : 7 名

立候補者数 : 6 名



氏名 大山 盛樹

都道府県士会 長崎県

年齢 54

勤務先名称 柿添病院附属中野診療所



氏名 小無田 彰仁

都道府県士会 長崎県

年齢 52

勤務先名称 和仁会病院

協会・士会役員歴

公益社団法人長崎県理学療法士協会
平成10年度～：理事（地区担当）
平成12年度～19年度：副会長・理事（渉外担当）
平成20年度～25年度：副会長・理事（渉外担当）、新公益法人推進委員会委員長
平成26年度～29年度：副会長・理事（財務担当）、政策検討委員会委員長

立候補の趣旨

時代のニーズである「地域包括ケアシステム」に会員の皆さんが的確に順応できるよう、県の理学療法士協会の運営を目指します。
また、日本理学療法士協会のビジョンを可能な限り「見える化」して会員の皆さんに伝えます。
そして、本来の理学療法の専門性を取り戻すべく、「臨床のあり方」を探求する協会を創造いたします。

協会・士会役員歴

平成20年度～（社）長崎県理学療法士会 社会局 介護保険部 理事
平成22年度～（社）長崎県理学療法士会 社会局 介護保険部 理事
平成24年度～（社）長崎県理学療法士会 社会局 介護保険部 理事
平成26年度～（公社）長崎県理学療法士協会 事務局長

立候補の趣旨

私たち理学療法士を取り巻く社会的環境は近年いろんな意味で大きな変化がある。理由は目の前に迫る「2025年問題」とその背景にある「社会保障費の低減化」に対応するべく国が積極的に押し進める「地域包括ケアシステム構築」である。地域包括ケアシステムの理解は、これからの時代を生きる理学療法士にとっては極めて重要なことと考える。「介護予防事業へのPTの参画」、「地域ケア会議へのPTの参加」等、リハビリテーション専門職の地域への積極的な参入が叫ばれる中、「地域で活躍できるPT」の人材育成は、当協会の優先的取り組み課題の一つと考えている。平成25年4月に当協会は「一般社団法人」から「公益社団法人」の認可を受けた。現在では2000名を超える会員を有しており、組織図においては6ブロック10地区に分割し、公益性を重視した活動を展開しているがまだまだ解決すべき課題は多い。これからは「本会の事務局機能の強化」と「地区との密な連携構築」を目標とし、広く皆様からの知恵や意見を拝聴し、切に取組んで参りたい。



氏名 井口 茂

都道府県士会 長崎県

年齢 55

勤務先名称 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科



氏名 山下 潤一郎

都道府県士会 長崎県

年齢 54

勤務先名称 長崎記念病院

協会・士会役員歴

協会役員歴

H 7. 7 (社) 日本理学療法士協会 生涯学習部部員 (H25. 5迄)
 H15. 6 (社) 日本理学療法士協会 代議員 (現在に至る)
 H21. 7 (社) 日本理学療法士協会 神経系理学療法研究部会委員 (H23. 5迄)
 H21. 10 (社) 日本理学療法士協会 研修システム等検討委員会 (H22. 3迄)
 H25. 6 (公社) 日本理学療法士協会 企画研修小委員会委員 (H26. 5迄)

士会役員歴

S62. 4 長崎県理学療法士会 財務部長 (H元年. 3迄)
 H 1. 4 長崎県理学療法士会 理事 (H5. 3迄)
 H 1. 4 長崎県理学療法士会 庶務部長 (H3. 3迄)
 H 3. 5 第27回日本理学療法士学会実行委員 総務部長 (H4. 5)
 H 5. 4 長崎県理学療法士会 学術局長 (H7. 3迄)
 H 5. 4 (社) 長崎県理学療法士会 理事 (H6. 3)
 H 6. 4 (社) 長崎県理学療法士会 生涯学習検討委員会委員長 (H7. 3迄)
 H 9. 4 (社) 長崎県理学療法士会 理事 (H26. 3)

立候補の趣旨

近年、理学療法を取り巻く状況は教育分野の改革や地域包括ケアに代表される社会貢献への期待など大きなものがあります。私は平成15年より代議員をつとめさせていただき、その間、理学療法士の卒後研修に関わってきました。最近では職場にて文部科学省の補助業に関わり、臨床指導者の養成と地域包括ケアシステムに貢献できるリハ専門職の養成に関わっています。理学療法の教育と社会貢献の面より、県レベル、全国レベルでの貢献ができるものと考えます。

協会・士会役員歴

(公社) 長崎県理学療法士協会 理事 社会局局长
 (公社) 元日本理学療法士協会 代議員

立候補の趣旨

私は(公社)長崎県理学療法士会の理事、社会局局长として診療・介護報酬関連に関する事に携わってきました。
 昨今理学療法士を取り巻く情勢は厳しいものになっています。平成30年度には診療報酬・介護報酬の改定が行われ、病棟機能の新たな取り組みに加え、回復期病棟においても6つの区分けがなされ、リハビリテーションの効果判定いわゆるアウトカムについてはより厳しいものが求められつつある現状になりつつあります。介護保険においてもデイケア、デイサービスでの長時間の単価の減、また医療との連携構築の重要性などが問われています。
 2025年問題だけでなく、地域医療構想など我々を取り巻く状況はさらに厳しくなることは予測されます。
 このような様々な問題がある中、臨床で働く一会員として多くの医療・介護分野で働く方々の地位・身分を保障していくためにも、会員諸氏の意見を積極的に取り入れ日本理学療法士協会に意見、具申をまいります。



氏名 塩塚 順

都道府県士会 長崎県

年齢 59

勤務先名称 虹が丘病院

協会・士会役員歴

2013-2014年 協会 理事(生涯学習機構:企画研修小委員会委員長)
 2013-2014年 協会 臨床実習ガイドラインワーキンググループ委員
 1999-2012年 協会 代議員 2016-現在 協会 代議員
 2014-2015年 協会 国際関係対策本部委員
 2016-現在 協会 国際事業推進執行委員会委員
 2007-2008年 協会 法規検討委員会委員
 2009-2013年 協会 政治参加特別検討委員会委員
 2009-2013年 協会 裁定委員会委員
 2009-2013年 九州ブロック代表士会長 2013-現在 同監事
 1998年-現在 長崎県理学療法士協会 会長

立候補の趣旨

現在、医療と介護の連携が重要視され、病院は機能分化が一層進んでいます。現状の理学療法士養成が進めば2025年には、20万人超の理学療法士が存在することが予想されます。代議員16年、士会会長20年の経験上、日本・本県を含む地方の理学療法士の多くの課題があることが解りました。平均年齢約33歳と若い組織の中で熟年世代と中堅世代、若年世代の相互間に認識の相違が生まれています。若い世代の協会離れに歯止めが利かなく組織も年々減少しています。組織に多くの経験や情報が得ることの利益があるのに「個」に対しての入会メリットを求めています。退会会員の多くはその理由に金銭面の負担をあげています。我々理学療法士の対象者も近年は予防、がん患者等多岐に渡っています。診療報酬改定によってもリハビリテーションの重要性は理解されてはいるものの、今後厳しい状況になることが予想されます。代議員として日本理学療法士協会と情報共有し、または地方の声を届けることをしたいと強く感じています。

現在の代議員総会は、日程上十分に各士会代議員と日本理学療法士協会と情報共有並びに意見交換に十分な議論が成されていないと感じます。現状の代議員の仕事は、任期2年2回の定時総会の出席と1回の役員選挙投票のみです。1日開催を2日開催とし1議題に対する質疑の時間をもつべきと考えます。



氏名 井手 伸二

都道府県士会 長崎県

年齢 56

勤務先名称 長崎リハビリテーション病院

協会・士会役員歴

平成24年～ 長崎県理学療法士協会理事

立候補の趣旨

以下の三点を活動の柱とし、県と全国の橋渡しとして活動してまいりたい所存です。
 1) 地域密着型の士会活動システムの構築: 地域包括ケアシステム構築と同期し、県レベルでの理学療法士協会に対するニーズに応えうる体制の構築が急務であること。
 2) 他団体(OT・ST等)との協働体制の構築: 県理学療法士協会でき取り組むべき事項と他団体とで協働していくべき取り組みについて整理し、特に後者においては、災害時等に対応すべく、上記の1)と同様にきわめて重要な地域リハビリテーションを推進していく上での重要な案件と位置付けます。
 3) 若手会員育成に向けた教育体系構築: 会員組織率の向上に向けた一つの大きな柱です。会員としてのメリットについて、県内を大きくブロック化することで、より会員に近い組織として活動することが重要であると認識しており、そのための体制を再構築してまいります。